

# 将来の水道施設の再構築のあり方について(提言素案の検討)(案)

## 提言素案の構成(これまでの主な意見)

### (1)首都東京を守る水源

- これからの水源確保の考え方は、需要量への対応のみならず、気候変動や渇水等、将来想定される様々なリスクに対応できるようにすべき
- 浄水場等の施設整備に比べ、水源の確保には時間がかかるため、ダムは確実に確保していくことが必要
- 想定を超える事故などに備え、水源の多系統化により被害を最小限に留めることが必要

### (2)安定給水を支える供給能力

- 供給能力は、需要量と一致させる必要はなく、補修や更新、事故等による変動を認識した上で、より安全度を考慮するなど、次世代に向けて新しい概念を作ることが必要
- 既存施設の能力を最大限活用した上で、さらに必要となる施設能力の確保に努めるべき
- これからの需要予測は、様々な分析を行い、複合的な観点から将来における需要の不確実性を考慮していくことが必要

### (3)浄水能力の効率的な再配置

- 想定を超える事故等に備え、施設のネットワーク化・分散化を図るとともに、重要施設に優先的に供給を行なうなど、被害を最小限に留めることが必要
- 既存施設の偏在や位置エネルギーの活用しにくさというハンディキャップもあるが、リスクの最小化に努めていくべき

### (4)いかなる状況にも対応できる浄水システムの構築

- 水道施設は、50年から100年の将来を見据えて構築していく必要があり、特に、施設的な質と安全度の向上が重要
- 気候変動による水温上昇や豪雨の増加に伴う原水水質の悪化など、将来の様々なリスクに対応していくことが必要
- 今後想定を超えるリスクが生じることを考えると、施設(用地)は、余裕を持つなど、安全側で考えるべき

### (5)将来にわたるバックアップ機能の確保

- 重要施設のみならず、どの施設を停止しても、他の施設で代替可能で供給を継続できるバックアップ機能を持たせることが必要
- 水道施設は、将来にわたり更新し続けることも踏まえて再構築を考えていくべき

### (6)水道事業におけるエネルギーの最小化

- 浄水場などを再構築するときは、消費電力などのエネルギーの最小化を考えていくことが必須
- 取水の基本である上流取水を行い、自然流下を活用することが必要
- 常に水道を供給し続けるためには、今後はバックアップ機能の確保や自然エネルギーを活用した電力量の確保が重要

### (7)防災機能のさらなる高度化

- 水道施設の震災対策については、東日本大震災を踏まえてリスクの想定を再度見直した上で、引き続き行っていくことが必要

### (8)都民の理解と信頼を深める

- 都民に対し、渇水や災害などのリスク対応に関する説明を丁寧に行い、理解を深めていくことが必要
- 局が保有する水道施設は膨大なため、震災対策などの施設整備に必要な財政措置などについても、都民に説明していくことが必要